

東ティモール在住4年を迎えようとしていた頃、仕事における東ティモールの農村地域との乖離を感じていましたが、縁あって2016年3月末から、当財団が実施する「農村地域の生計向上事業」のプロジェクト・マネージャーとして、女性農民の経済的エンパワメントに携わることになりました。CAREの現地事務所である「CARE 東ティモール」は、相互扶助のスピリットがあり、非常に働きやすい環境です。夕方になるとスタッフの子どもが遊びに来て、広い敷地でかくれんぼをして遊ぶ姿も見られます。私の子どもたちも、一緒に出勤することやお迎えついでにオフィスの敷地を探検することが楽しみなようです。

事業実施においては、やっと6人のチームメンバーがそろい、活動に着手し始めたところです。活動地は、首都からかなり離れた山の上に位置し道路状況が劣悪なため、雨季には車やバスが動けず立ち往生することも度々あります。マーケットにたどり着くのが困難なため、農民たちは仮に収穫があってもなかなか収入を得られないという難しさを抱えながら生活をしています。このような農民、特に女性たちの自信醸成と生計向上に貢献できるよう、チームをまとめ丸となってプロジェクトを実施していきたいと思っています。



▲CAREが作成している学習雑誌「ラファエック」のマスコットのワニと

## 事務局長からのご連絡

### 歩く国際協力「Walk in Her Shoes2016」のご報告とお礼

3月8日の「国際女性の日」から始まった「Walk in Her Shoes2016」は、5月31日をもって終了いたしました。キャンペーン参加者は275名、キャンペーン中に参加者が歩いた歩数の合計は124,842,999歩となりました。またキャンペーンの期間中、東京で2回、大阪で1回のチャリティウォークを開催し、延べ174名の方にご参加いただきました。

歩数目標の1億5千万歩には届かなかったものの、全国各地また海外からも、途上国の女性たちへのメッセージや日々のウォーキングの感想、写真やコメントが届き、地域を超えて温かいつながりを感じることができたキャンペーンとなりました。

本キャンペーン実施にあたっては、特別協賛のミズノ株式会社様、味の素株式会社様、カランマス・セジャトラ社様をはじめ、多くの企業様からのご協賛と、個人や団体の皆様のご協力をいただきました。キャンペーンを支えてくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

### ジュニア・アンバサダーも大活躍!

公益社団法人ガールスカウト日本連盟に所属する全国の高校生28名が、広報部隊として活躍してくださいました。



▲2キロのお米を頭にのせて

▲大阪のイベントでは、水に関するクイズを出題

▲今年は、自らチャリティウォークを企画し、資金調達にもチャレンジ!

個人支援者専用ダイヤル



TEL: 03-5944-9931

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白 2-2-1 目白カルチャービル5階 TEL: 03-5950-1335 FAX: 03-5950-1375 E-mail: info@careintjp.org  
Website: www.careintjp.org Facebook: www.facebook.com/CAREjp Twitter: https://twitter.com/CAREjp

※ 小誌へのご意見、ご感想を募集しています。発行元までお寄せ下さい。

※ このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの古野真菜実様のご協力により、制作されています。

# CARE World

Vol. 31 Newsletters June 2016

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界90ヶ国以上で人道支援活動を行う国際NGO「CARE」の日本事務局です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。特に「女子教育」「女性の経済的エンパワメント」「母子保健」の分野に注力し、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

## Contents

- 01 CAREの緊急支援
- 02 ネパール大地震被災者緊急支援事業
- 03 シリア難民支援事業
- 04 スタッフ紹介 & 事務局連絡

## CAREの緊急支援

昨今、世界各地で災害が多発していることに加え、その規模も大きく被害が甚大になる傾向にある中、CAREでは、常時15から20の大小様々な規模の緊急支援を世界中で実施しています。日本も、特に、アジア地域の大規模災害に対しては、国内で募金活動を積極的に展開することで、CAREの緊急支援を支えています。

最近では、フィリピン台風被災者支援(2013年11月発災)とネパール大地震被災者支援(2015年4月発災)をあげることができます。この2つのケースは、台風と地震、島嶼地域と山岳地域等、災害の種類も地勢的な特徴も異なり、経済的指標で見る発展のレベルも異なりますが、CAREはどちらの緊急支援においても非常に似たアプローチをとっています。なぜなら、CAREでは、いかなる地域のいかなる緊急事態であっても、事業を実施する際に必ず配慮していることがあるからです。

まず、**災害弱者に届く支援であること**。高齢者、障がい者、妊産婦や子ども、生活困窮世帯やひとり親世帯等は、平常時でも日々の生活に困難を伴いがちです。災害時には、その困難がより顕在化され脆弱度が高まるため、「災害弱者」とも総称されます。CAREは、被害が最も深刻で最も脆弱性の高い人々に対して、確実に必要な支援を届けることに、最大限の配慮をしています。

第2に、**多様性に配慮すること**。女性と男性では、災害時のニーズは異なります。性差によるニーズやインパクトの違いを見つめることは、障がい者や高齢者、少数民族等のニーズやインパクトの違いにも目を向けるき



かけともなります。一人ひとりの多様性を尊重することで、大多数にとっての最大公約数的な支援に陥らない努力をしています。

第3に、**より安全な再建に配慮すること**。災害前の状態に戻す復旧に留まらず、地域の脆弱性を軽減することで、レジリエンス、つまり今後起こり得る災害への対応力と災害からの回復力のある地域社会の実現を目指します。

そして最後に、**現地パートナー団体との協働により支援を行うこと**。事業を通してパートナー団体が市民社会を牽引してゆく力をつけ、第3の配慮事項でもある、災害弱者を生み出さないレジリエンスを備えた社会の実現を目指します。

全ての事業に慎重に組み込まれるこれらの配慮は、地域の違いを超えた普遍的なCAREの緊急支援の強みとして、質の高い事業を可能としています。

(事業部長 菊池 康子)

# 災害弱者に確実に届く CARE の緊急支援

自然  
災害

## ネパール大地震被災者緊急支援事業



2015年4月25日、マグニチュード7.8の地震が、ネパールを襲ってから1年が経過しました。

CARE は、発生直後から、首都カトマンズに支援が集中しないように配慮し、ゴルカ郡、ダディン郡、ラムジュン郡、シンドウパルチョーク郡を中心に支援活動を展開。特に大きな被害を被った「女性や女子」が直面する様々な課題の解決に取り組んでいます。

### 数字で見る 1 年 (受益者数/世帯：196,125 人/ 39,638 世帯)

#### 食糧・生計向上：109,396 人

- 生活に最低限必要な現金支給：2,535 世帯
- 災害復興に向けた役務提供への対価支給：17,483 人/日
- 農業再開のための種子や農具の配布及び農業研修：20,040 世帯

#### ジェンダーに基づく暴力：39,348 人

- 女性にやさしい居場所提供：3,209 人
- ジェンダー研修や啓発イベントの実施：31 回
- ボランティアによる啓発活動：23,247 世帯



### 多様性への配慮

- ▲女性・男性ともに配布物資に平等にアクセスできるように、配布パッケージのサイズや重さを最適化しています。
- ▲複数の配布拠点を設けることで、災害弱者が配布場所にアクセスしやすくしています。
- ▲「より安全な再建」へ今後の災害への対応能力を強化しています。



### CARE ネパール事務所からの声

CARE ネパールの WUENNENBERG 事務局長は、「土地を所有しない女性や女子は、このような厳しい状況において、最も脆弱な立場におかれています。我々は、彼女たちが、復興や再建のプロセスから取り残されることのないように、細心の注意を払わなければなりません。CARE は、彼女たちに生活再建に必要な新しい技術を身に付けてもらうことで、現金収入を得て、家族を支えることができるよう支援することが、最も重要だと考えています」と言います。

## シリア難民支援事業

紛争



冷戦終結以降、最悪の人道の危機と言われるシリア内戦から5年。シリアから逃れる難民の4分の3が女性と子どもであり、女性や子どものニーズや権利を特に配慮した支援が求められています。

CARE は、シリア国内と周辺国のヨルダン、レバノン、エジプトにおいて、食糧配布や避難所での支援活動に加えて、生計向上、水と衛生及び母子保健等の分野で緊急支援を展開しています。

### 数字で見る 5 年 (ヨルダン)

- 現金支給支援 (当面の生活保障)：約 34,000 のシリア難民世帯
- 越冬対策支援 (現金支給、暖房器具、燃料交換券、毛布、マットレス等の現物支給)：約 52,000 のシリア難民世帯
- 教育支援 (児童労働を防ぎ、就学期にある子どもの教育支援を目的に、就学期児童をもつ世帯への学費支給)：約 570 のシリア難民世帯
- 職業訓練支援：約 900 人のシリア難民

### 世界最大規模の「アズラク難民キャンプ (ヨルダン)」での活動



- ▲自身も難民であるボランティアが、女子たちのIT技術の取得を手助けしています。
- ▲アズラク難民キャンプで活動する CARE ヨルダンの職員たち。
- ▲難民キャンプ内にある「CARE コミュニティ・センター」が人々の集いの場に。キャンプで配布される「子ども新聞」の編集集会などでも活用されています。

### Kareman (16 歳)さんのストーリー ヨルダンに逃れて 4 年 CARE のピアサポートグループ\*に参加して

「初めてヨルダンに来た時、紛争によって身一つで故郷を離れたこと、すべてが壊されたのを見たこと、この地で、いちから (生活を) 始めなければならぬ現実に、精神的にとっても不安定になりました。でも、CARE のピアサポートの集まりが、立ち直れるように手助けをしてくれました。そこで、これが自分の人生だと思い、あきらめないこと、自分自身に責任を持つことを学びました。当時、このノートを持って、集まりに参加しました。私の身に起こったことをノートに書き留めていったことが、大きな助けとなりました。私は、人生で一番悲しい時期を経験し、乗り越えられました。その経験から、これからどんなことにも立ち向かえると思うし、とても幸せだった時期もあったことにも気づきました。人生は、悲しみだけではなく、幸せに満ち溢れているものだと分かりました。」



\* 英語のピア (peer) という言葉は (年齢・地位・能力・経験などが) 同等の者・同僚同輩・仲間という意味。ピアサポートとは、「仲間を支える」という意味になりますが、その活動は一方が支える、支えられるという一方通行のものではなく、仲間同士でお互いがお互いを支える、支えられるというものです。

日本国内においては、「ネパール大地震被災者支援」と「シリア難民支援」への寄付の受付は終了しましたが、今後も CARE は、これらの支援活動を継続し、女性や女子を含む、最も弱い立場にいる人を優先的に支援していきます。多くの皆さまからのご寄付やご支援に、改めまして御礼を申し上げます。